

## 金型製造技術の精度向上を進める 企画・提案力が強み



### 事業内容

#### 金型製造から成形加工まで小ロット成形品製造に貢献

家電用部品の金型製造を目的に浅井金型の称号で1985年(昭和60年)に開業し、現在では金型の製造に加え、プラスチック製品の成形加工までを手掛ける。具体的には、雑貨やリモコンカバーといった身近な部品からコピー機の部品、医療関連機器部品、自動車関連部品など業種を問わず対応している。営業エリアは、九州を含めた西日本をカバーするほか、直接問い合わせにも対応する。

さまざまな業種の顧客へ対応できるのは、従業員の技術力に加え、機械設備の要素が大きい。高速加工機(牧野フライス製)、自動鏡面加工装置をはじめ、最新のマシニングセンターやワイヤー放電加工機を保有。企業規模に比して充実した機械設備であることが、生産力や技術力を支えており、得意先からの評価につながっている。

また、同社の強みは、単なる金型製造やプラスチックの成形加工など単工程だけではなく、金型製造からプラスチックの成形加工まで一貫して請け負えることだ。外注工程はなく全て内製化できるため、納期面も柔軟に対応できる。さらに、敬遠されがちな小ロットで、加工が難しい形状が複雑な案件にも対応する。もちろん、金型製造やプラスチック成形加工への造詣は深く、最適解の提案を行っている。

### 補助事業

#### 「チェンジシステム金型」の高精度化 品質レベルの向上を図る

射出成形金型の場合、1品に対して1つのモールドベース(成型品を取るための金型の元となる材料)が必要となるが、同社が開発した「チェンジシステム金型方式」を採用すれば、モールドベースを他製品にも共有使用できるため、コスト削減につながる。

チェンジシステム金型を採用する顧客企業が増えるにつれ、最終製品(成形加工後の製品)の精度向上を求める声も上がってきた。例えば、微細な段差をなくして欲しいという要望。単価が高く、付加価値が高い製品を請け負っている同社にとって顧客の要望に応え、製品レベルの向上を図るのは必須であった。

そこで、今回の補助事業では最新設備を導入し、チェンジシステム金型の高精度化に取り組んだ。金型の精度を0.01mm以下まで調整できる設計・加工技術の研究を進め、雑貨小物市場や医療分野への貢献を目指す。また、高精度化を進めることで製品の品質レベル向上も期待でき、作り直しが減ることによるコスト削減効果も見込む。

### 成果

#### 製品レベルアップと顧客のコスト削減に貢献 複雑な形状への展開

今回の補助事業で最新の機械設備を導入し、金型の精度を0.01mm以下まで調整できるようになり、成形品の製品レベルが向上した。チェンジシステム金型製作の際にも新設備が有効活用されている。

研究開発部品関係の受注も新たに得ているほか、展示会(新価値創造展)にも積極的に出展することで引合いもある。特に顧客からは、製品のレベル向上に対する評価が高く、また、製品に対して金型の投資金額を抑えられている点も評価を受けている。

金型業界では、金型の金額をパンフレット等で示すことはあまりしないが、同社では価格を明示。金型費が削減できることを積極的にアピールしている。徐々にではあるが、同社の優位性をアピールしながら新規受注にもつなげていきたい意向である。

同社の金型製造および販売で相応の成果が得られているなか、顧客の要望が多様化し、求められるレベルが向上してくるにつれ、ネジ形状の金型の需要が増えつつある。今回導入したチェンジシステム金型を利用すればこうした形状にも対応が可能であるため、数年以内にはネジ形状金型も展開していきたいとしている。

### 今後の展開

#### ものづくりを伝える デザイン分野にも進出

金型業界では珍しく完全週休2日制を採用するなど、従業員の働き方についても変革をいとわない。そんな同社が次に挑戦したいと考えるのは、「ものづくり」の伝え方である。若手の職人を育てるとき、業界では「技術は先輩を見て覚える」と言わんばかりの状態、またベテラン職人も教え方が得意ではないのが現状。そこで「浅井金型マニュアル」の作成などを検討中で、社員全員で「ものづくり」の伝え方を考えるきっかけを作っていく予定である。マニュアルが直接的な技術継承になるわけではないが、新しく入社する若手の成長の一助となればと考えている。

また、技術レベルの向上を目的に例年実施している「産学連携デザイン実践プロジェクト」を今年も行う。プロダクトデザインの専門学校とコラボレーションし、デザイン性の強化を図る試みだ。学生に商品をデザインしてもらい、同社の技術者が実現可能かチェックする。製品デザインの重要性が増すなか、新たな提案につながるきっかけを見つけ出すのが狙いであり、学生にとっても良い刺激となる。

国や自治体から補助金や表彰を受けるなか、同社の信用や知名度も上がってきており、今後も日々成長し、社長を中心に走り続ける。

#### 補助事業を受けてのメリット

代表取締役社長 浅井 理男

今回の補助事業を受けて当社にとり、メリットをお伝えしたいと思います。

- ①社内が活性し、特に新しく導入した機械の担当オペレーターのモチベーションが上がった。
- ②加工の精度が上がり、金型の品質向上につながった。
- ③加工面がキレイに仕上がること、磨きに費やす時間が削減できるようになった。
- ④機械設備を最新のものに更新することができ、得意先に対しても積極的な営業活動ができるようになった。

本補助事業でのメリットを有効活用し、今後も技術向上にまい進してまいります。

#### 浅井金型 株式会社

代表取締役社長 浅井 理男  
羽曳野市誉田1641  
TEL : 072-956-9037  
(資本金) 10,000千円  
(従業員) 5人  
<http://www.a-mold.co.jp/>

